

高山

高山の原生林を守る会

(たかやま)

会報 第 48 号

2004 年 4 月



信夫山観察会

2月11日(水)に信夫山観察会を実施しました。参加者は18名でした。文化センターから祓川沿いに整備された遊歩道を辿り、北登拝路から入山し、北登拝路口～立石山～熊野山～烏ヶ崎を経て文化センターに戻る周回コースを散策しました。登山口の斜面では、ヤマヤブソテツとトラノオシダの群落が見られました。これは半田山でもセットで植生が確認されたのでこの2種類のシダは好適環境が似ているのかもしれませんが。コナラを中心とした急登も程なく岩室を備えた小峰神社です。小峰神社の石垣では真っ赤なコケが観察できました。展望の良い奇岩のある立石周辺ではネジキの植生が多いようです。熊野山では、ミズキとクマノミズキと一緒に観察できました。熊野山を過ぎると開墾された畑なども見られ人里の気配が強くなります。羽黒神社では、「暁参り」当日で出店も見られ賑わいを見せていました。途中、珍しいイワテヤマナシの大木、イヌシデかアカシデかなどとシダ類の判別談義、大日岩行場付近での三角帽子をかぶった稚児に似たフジの冬芽を楽しみながら残雪がわずかに残る信夫山の自然路を散策しました。烏ヶ崎からは山火事で焼失した急斜面が一望できましたが、場違いなデッキとは対照的で、ある意味お互いに異質な風景でした。



冬晴れの信夫山観察会に参加して

高山 光晴、光子

2月11日、福島の冬には珍しい快晴、無風の中、信夫山観察会に参加させて頂きました。山内さんに駐車場を確保して頂き、県文化センター前で自己紹介後出発。

祓川遊歩道を歩きながら信夫山の歴史や地理を教えて貰って驚いたのは、今、信夫山の北側を流れる松川が昔は南側を流れていたという話でした。

北登拝路口手前の北東斜面でマンサクの花が数十輪、何故か一部の枝にだけ群がって咲いていました。古峰神社までの登山道では落葉した樹名で皆さん、カンカンガクガク五つ教えて頂いて四つ忘れる才能を持っている私共には葉っぱのない木は難しい。

周回道路下の石垣で橙色に輝くコケが一面に、先輩方も名前が分からないらしいので今日のところは「しのぶオレンジゴケ」にしておこう。北面はまだ自然が残っているが熊野山からの稜線は無線塔が林立して興ざめでした。しかし、268mの三角点で休憩している時、綺麗なピンクの襟巻きをした鳥が・・・「あれっ なんて言う鳥」、「ウソみたい」、「ウソウ」図鑑を持ってきた少女の勝ち。

羽黒神社からの下りは日当たりもよく、梅の花がチラホラ咲き出しニホンタンポポが一輪咲いていました。最後のひと登りで鳥が崎へ。雲ひとつ無い空に雪の安達太良山系、吾妻山系が一望でき爽快な昼食でした。残念なのは展望デッキとやら人工物が設置してあったことです。山林火災の跡地にも雑木が育ち始め、自然の力にも感心しました。

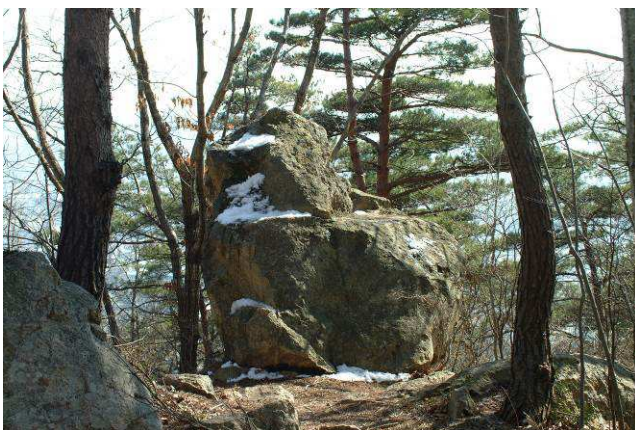
信夫山は我が家から1km程の距離にありウォーキングで十数回登っていますが何時も周回道路ばかりで春蘭やカタクリが沢山あるのを知りませんでした。今回が三回目の参加でしたが毎回、皆さんから色々なことを教えて頂き大変感謝しています。これからも宜しく御願ひ致します。



ヤマイタチシダ



ニホンタンポポ



座禅石



しのぶオレンジゴケ？

【 湯田訪問記 】

鈴木勝美

◎ 2月14日 白木峠

朝からどんよりした天気、心配しながら集合場所へ向かった、メンバーが揃って出発、高速を北へ向かう、蔵王の屏風岳、雁戸山、そして栗駒山はかすんで見える、焼石岳も覚えていただいぶ北上したのを実感するが平地の雪はまだ少ない、秋田道に入るとさすがに様子は変わり、雪の壁が出来ている。

錦秋湖パーキングで休憩し瀬川宅に連絡を入れる。すぐ前には雪崩が起きそうな真白い斜面を持つ山が見える。高速インターの出口で待ち合わせして登山口へ向かう。登山口手前で秋田の佐藤さんが待っていた。「越中畑、御番所跡」の案内板のある道端に車を止め、支度をして瀬川さんの案内で出発。畑か田圃風の場所を進む。小屋の脇からアカネズミの足跡が木の根元まで続く。林に入る直前まで夏は車が入るそう。しまり雪で歩きやすく快調。さらに日差しも出てきて予報に反し



湿原を行く



雪まくり

絶好の日和になった。晴れ男・晴れ女がいたようである。

林に入りなだらかな登りを進む。途中「牛泊まり」の説明を聞き「ユキツバキ群生地」では、案内板支柱の先だけが雪の上に出ていた。積雪は1m程ありそうだ。春になったら再訪したいところである。

南東の眺めが良いところで昼食となる「ふきどり地蔵」と呼ばれるところだろう。「ふきどり」とは吹雪で命を取られることとのこと。昔は真冬でも歩いて人の往来があったのである。漬物やパン、スープなど贅沢なランチタイムとなる。皆様ご馳走さまです。ザックが少し軽くなって歩を進めると広い場所に出る。湿原であろうその上を歩けるのもこの時期ならではのこと。峠の頂上が意外に近く望め、足に力がこもる。ところどころ掘り割りのようになった場所があり、単なる登山道とは違うようで、

歴史のある街道の名残であろう。先が明るく開けると頂上直下に出た。正面はスキーに格好の斜面で、右側に迂回して尾根を登る。稜線に出ると絶景が待っていた。左右の山並みを眺めながら登ってゆくと間もなく白木峠頂上に到着。南は栗駒山が霞んで見え焼石岳の山容がよく見える。反転し秋田側は、横手の町は望めるが期待した鳥海山は霞んで見えなかった。

スキーのシールをはずし楽しみの滑り、私はスノーシューで登ってきた道に戻る。とはいえ、まっすぐ下れて雪のクッションもあり快適である。早く滑ってしまった人は、途中まで登り返して滑りを楽しんでいた。みんな揃ったところで戻ることになる。それぞれのペースで一本杉の大木や密猟のあと、枝の間に雪を抱きかかえるようにしたミズナラなどを見ながら、つかず離れず下ってゆく。途中で日差しと暖かさで雪が重くなり、予備に持参したスノーシューに履き替えるメンバーもいた。帰りはスキーが重くなり、スキーを存分に滑りたいメンバーには消化不良であったろうが、一日上天気で予定通り無事、車に戻れた。ふきどり地蔵や牛泊まり、ユキツバキなど説明を受けたが雪の下に埋もれ実感が伴わないのは残念である。やはりたくさんの花が咲き競う頃にでも再訪しなければ、この点も消化不良になりそうである。

温泉入浴後、瀬川宅を訪問すると、まずペレットストーブを拝見。(ペレットストーブについては下記説明)夕食は囲炉裏で鍋を囲み、出来たばかりのガイド資料や手書きのイラストを拝見し葉、種、鳥の羽などから名前当て、鳥の鳴きなしなど楽しい時間を過ごせた。

◎ 2月15日 カタクリの会自然観察会参加

2日目は雪国文化研究所(沢内村)で観察会に参加した。昨夜の雨は、夜半から雪に変わり、湯田の冬らしいお天気になってきた。集合時には雪国文化研究所の部屋が、30名弱の参加者でいっぱいになる。たびたび福島を観察会にも来ていただいている小野寺さんの顔も見えます。朝の挨拶のあと、研究員の小野寺聡さんが降雪量、酸性雪、ライフワークとおっしゃる「かんじき」のことなどを話されました。縄文時代の遺跡から出たものが、かんじきのルーツではないかとの話、驚きです、また地域によって様々なカンジキがあることがよくわかりました。続いては雪の実地観察、



雪の断面観察

外は吹雪いており身支度をして前庭に出て行きます、こちらの方々は、スコップの使い方は手慣れたもので雪をどんどん掘り下げて準備完了、積雪103cmと少なめとのことでした。温度、雪質、密度を深さごとに数箇所測り、更に長い筒を縦に刺して全層密度を測定、後からこの雪を溶かし酸性度も測定するそうです。最後に断面に専用の着色液をかけて断面の観察をします、ざらめ、新雪、しまり雪などの層が綺麗に現れました、観察が終わり現状復帰、全員で埋め戻しました。午後からは周辺の観察があるそうですが、昼食後岩手の皆さんに見送られて、吹雪のなかを慎重な運転で帰途につきました。湯田や沢内は体感ではずっと寒いのであろうが、雪の羽毛布団に包まれたようなホンワカした暖かさが心の中に残っていた。



ペレットストーブ

◎ペレットストーブ◎

いままで使い道が無いか限られていたおがくずや樹皮を、圧縮し固めたペレットを燃料にするストーブです。ペレットの供給や送風のため電気を使うタイプもあるそうですが、拝見したのは使わないタイプです。岩手県内の企業が造ったもので、いかにも南部鉄の地元らしい頑丈そうなストーブです。天板の前を開けるとペレット収納部で、一定量ずつ下の燃烧室へ落ちていきます。燃烧室の焚き口を開けて薪も焚けます。ペレットは長さ1cmから1.5cm程度の円柱状です。このストーブの良い点は完全燃烧するので煙や灰が少ない、薪との併用も可、安定した火力、薪割りの労力不要等があげられます。その反面、火力の調整は難しく、すぐに消せない、コスト面（ペレットは15kgの袋で450円、需要が少ないので、まだ高めの値段）など不満の点もあり、開発途上の製品というところでしょう。福島県でも来年度からペレットストーブのモニターを募集（公共施設対象）するそうだが、一般に実用化はまだ先のことでしょう。技術面や流通、制度等の問題も早く解決して、広く使われるようになることを願います。

みんなのモリ

渡辺 仁

先日、とある森（丘）の未来についてのワークショップ（体験+話し合い）に参加してきました。いわば「森のかたちをどうしていこうか」という話し合いです。そのちいさな森は「私有地で国立公園で里山そして観光地」といえるような場所として、そのような空間を接点として集まる人（市民）も、実に多様性に富んでいたと感じたのです。

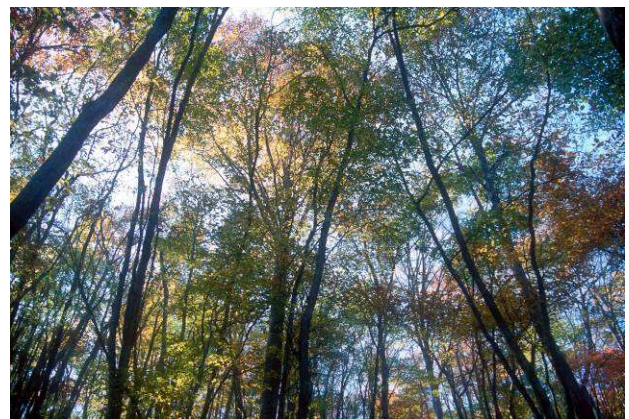
例えば、その展望所からの視界をさえぎり始めた木々をどうするかという問題についても、さまざまな意見が出されました。そこ（視点場）からの眺望を維持したいという意見と、生態系としての森林を維持したいという意見は、その丘の持つ多様な機能への、様々な思いが現われていたと思います。

また、観察のグループが「自然」と「歴史・文化」と分かれたように、森林（ヤマ）には「自然」としての価値だけではなく、地域の歴史や文化という「人との関わり」という側面もあり、そのどちらの方向性にも秀でた方々が、よくも集まったものであると感心しているわけです。

そしてまた、このように湧き上がった様々な思いをひとつにまとめる（合意形成）ことの難しさも感じました。幸いというか、「フォレストパークあだたら」が近い場所だけに、すぐれたコーディネーターにも恵まれ、「市民による森林づくり」という来るべき“協働型社会”の最先端としての活動が、ここにもまた生まれたとわくわくしている私なのです。

ところで、「みんなの」という言葉の意味を考え始めると、必ず引っかかるキーワードがあります。「コモンズ」という言葉がそれです。この1月に「コモンズ」をテーマにした本が2冊出版されました。一つは日本の「入会林野制度」を扱い、もう一つはインドネシアの熱帯林をフィールドとしたものでした。

コモンズに関する数年前の本の中では、奥只見と白神山地がフィールドワークの対象地になっていまして、「共生」という近未来社会像の中での森林の利用法を探るとき、「コモンズ論」には多くの示唆があるように感じています。



第 64 回自然観察会案内・東吾妻山・春の雪上観察会：日時 4 月 2 5 日（日）

集合場所：四季の里入り口駐車場

集合時間：8：00 観察会参加定員 20 名

内 容：兎平から東吾妻山頂まで登り、オオシラビソ林の植生を観察します。また頂上では火山地形と植生について考察します。

日程：8:00～15:30

8:00 集合・受付 8:15 移動（兎平駐車場へ） 9:15 兎平駐車場 9:30～12:00 東吾妻山頂 12:00～13:00 昼食 14:30 兎平駐車場 15:30 四季の里・解散

準備するもの：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（複数）、昼食、着替ストック、あれば双眼鏡

*装備について不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300 円） 申し込み：4 月 2 4 日（土）まで

参加申込先：高橋淳一（TEL 024-593-1990）または佐藤守（TEL 024-593-0188）

電話またはメールにて返信ください。（電話申込はいずれも夜間 7 時～9 時でお願いします）

第 65 回自然観察会・植林と龍ヶ岳観察会：日時：6 月 6 日（日） 7：20～15：30

集合場所：福島市役所信陵支所 集合時間：7：20 参加定員 20 名以上（多数の参加歓迎）

内 容：鳩峰峠の牧場跡地で広葉樹の植付けと沢沿いのブナ樹冠下のブナ、イタヤカエデ、ミズナラ、カスミザクラ等の芽生えの掘り上げ（牧草により枯死してしまう芽生えを育成し現地に植樹）を行います。植林にあたっては福島森林管理署、JA 高島の協力を頂きます。

準備するもの：登山靴（長靴）、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（複数）、着替

日程：8:00～9:00 移動 9:00～12:00 植林 12:00～13:00 昼食 13:00～15:00 龍ヶ岳散策（日程は、変更されることがあります。予めご了解願います）

参加費用 保険代 300 円（当日） 申し込み 6 月 5 日（土）まで

*スコップ、剪定ばさみ、草刈鎌等の園芸用具をお持ちの方は、持参の上ご協力ください。

*その他不明な点があればご相談下さい。

植林について

1. 植林地の由来：国有地。JA 高島が借り受けて経営していた鳩峰牧場を閉鎖。国へ返還するためには現状復帰（広葉樹林化）が条件。
2. 標高は 700m～750m。現地はブナ林の開墾地であり、ブナの壮木が残っている。先駆的樹種のカバ類では、ハンノキの幼樹が既に育ちつつあり、マント植生ではタニウツギ、アキグミが再生定着しています。
3. 植林予定の樹種と選定理由（まだ確定したものではありません。）
 - (1) 樹種：ミズナラ、アカシデ、クマシデ、イタヤカエデ、トチノキ、ナナカマド
 - (2) 選定理由
 - ① 自然遷移によるブナ林形成のための環境を整えるため、ミズナラ林を養成する。
 - ② 翼果を持つ樹種（シデ類、カエデ類）を中心に植栽すれば、風によりかなりの範囲まで自然は種されるため、かなりの速さで二次林の復活が期待できる。
 - ③ どんぐりを安定生産するミズナラ林を育成し、鳥類や小動物のえさを確保する。

会報 50 号記念号の原稿を募集します。

夏には会報も 50 号を迎えます。50 号では 2～4 ページ程度増やして何か特別の企画をいれて発行できればいいなと思っています。企画のアイデアや自然に関する原稿をお寄せください。特に、最近、顔を出せない会員、古い会員の皆様、よろしくお願ひします。

新年度の会費納入：郵便振替は 0 2 1 7 0 - 0 - 2 4 3 5 1 「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第 4 8 号 2004 年 4 月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP アドレス <http://www.h4.dion.ne.jp/~pomom/index.htm>

代表連絡先：高橋淳一 Phone 024-593-1990（夜間 7 時～9 時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500 円）を添えて上記まで

編 集：奥田・佐藤・山内・鈴木・丸山

【編集後記】■東北の自然保護の集いも無事終了しました。今回の集いでは、東北・関東両森林管理局の職員も参加し、各分科会等で率直な意見交換をしていました。このようなことは、以前であれば全く考えられませんでした。■市民グループ主催で官庁と市民グループがこのように同一土俵で本音の意見交換を行う催しは、他にあまり事例がないように思います。■「順応型管理方式」を地で行く林野庁のこの流れが、今後の森林再生に向けた行政手法として定着すればと願う。■来年は定期観察会を始めて10年目を迎えます。来年もよろしく申し上げます。